

はじめての

万葉集

[vol.31]

日本に現存する最古の和歌集『万葉集』をわかりやすく紹介します。

酒造りの歌

新酒の仕込みに忙しい時期ですね。今月には大神神社で醸造の安全を祈願する「酒まつり」が執り行われます。三輪は『万葉集』に「味酒」の言葉が付けられるほど古くから酒と縁深い地域です。

『万葉集』にはさまざまな酒の名前が出てきます。「吉備の酒」(巻四の五四)、「君がため醸みし待酒」(巻四の五五五)、「糟湯酒」(巻五の八九二)、「豊御酒」(巻六の九七三)、「黒酒白酒」(巻十九の四二七五)など、神事での酒、宴会での酒、親しい友人を想う酒といった、古代の豊かな酒文化をうかがい知ることができます。

右の歌には「造酒歌一首」(酒を造れる歌一首)という題詞(タイトル)がついています。しかし恋心が詠まれており、酒との直接的な関わりがみられま

せん。

『万葉集』の巻十七から巻二十までは、大伴家持関連の歌々が年月日順に配列されています。そのため前後の歌から推測するに、この歌は家持が越中国(現在の富山県)の国司を勤めていた天平二十年(七四八)の春に詠まれたようです。この年、家持は出挙(利子付き貸与の慣行)のために越中国内を巡行しています。おそらくその勤めのなかで、酒造りに関わる経験を得て、あるいは醸造のときにうたう歌を聞き知ったことが、この歌を詠む契機になったと考えられています。

中臣氏は宮中の神事を司った氏族です。その中臣氏が唱えるような立派な祝詞が造酒の際になされ、祓いをして祈願すると詠まれています。そうした酒造りに関わる神事の表現は、最後には「転して恋人への思いに集約されます。この意表を突いた表現の転換がこの歌の面白さではないでしょうか。

訳

中臣の太祝詞言いひ祓へ
贖ふ命も誰がために汝

中臣の太祝詞言を唱え、祓いをし、祈る命も、誰のためか。他ならぬあなたのためだ。

大伴家持 卷十七 四〇三一 一番歌



(本文 万葉文化館 小倉久美子)



うま酒みわの舞

造家・醸造元に授与されます。また、境内では各地から奉獻された銘柄を展示する全国銘酒展が催され、樽酒の振る舞いも行われます。

醸造安全祈願祭 (酒まつり)

日時: 11/14 (月) 10時30分～
アクセス: JR三輪駅より東へ約700m
問 大神神社 ☎0744-42-6633

万葉ちゃんのつぶやき
和歌に関連するものを紹介するよ!!



万葉ちゃん